

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立細谷小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 64人

② 算数 64人

5 留意事項

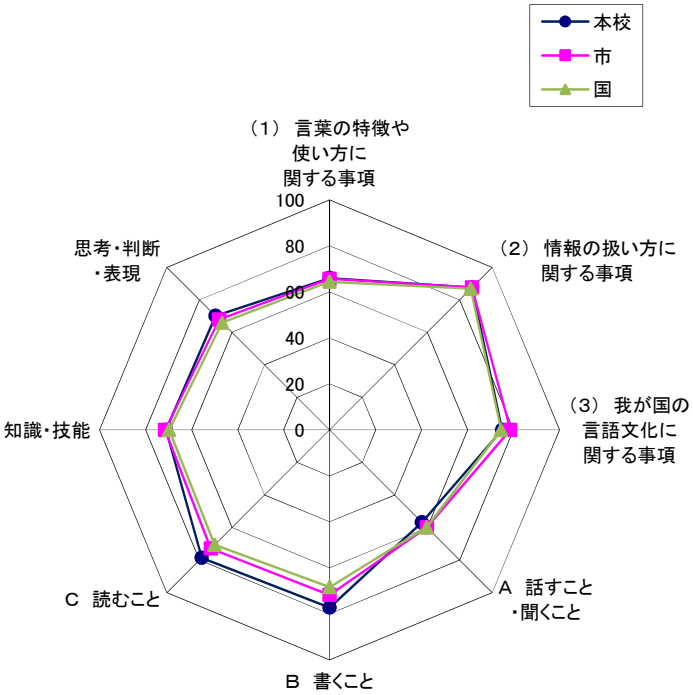
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	66.0	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	87.5	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	56.8	59.9	59.8
	B 書くこと	77.3	71.8	68.4
	C 読むこと	78.6	72.9	70.7
観点	知識・技能	71.1	71.5	69.8
	思考・判断・表現	70.1	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

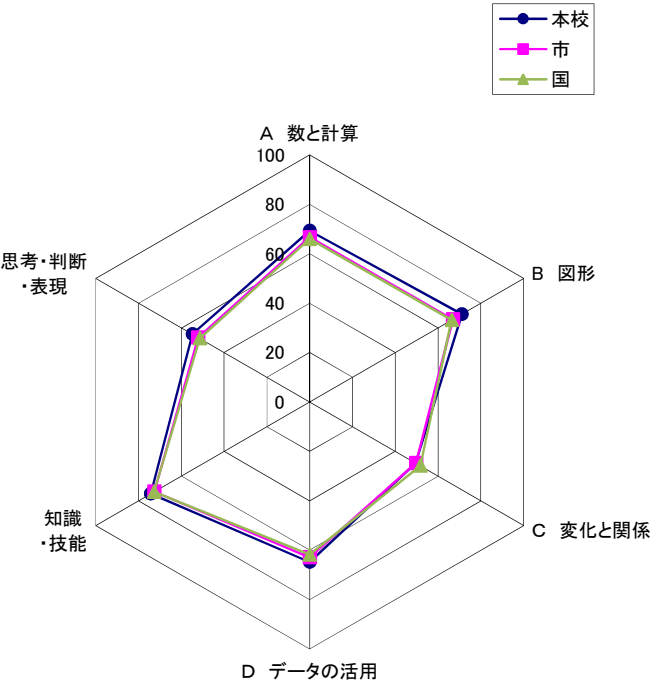
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や 使いに関する事項	○単語を漢字に書き直す問題では本校正答率が48.4%で、全国の平均正答率と比べて5ポイント上回っている。 ●話し言葉と書き言葉の違いに気付く問題では、本校正答率が68.8%で、全国の平均正答率と比べて7.1ポイント下回っている。	・今後も漢字の読み書きに関しては、文の中で漢字を使う練習や繰り返しドリル学習など、日常的な指導を充実させていく。 ・各教科の中で対話的な学習場面を意識して作り出し、話し言葉と書き言葉の違いについて、実践しながら練習する場を設ける。
(2) 情報の扱い方に 関する事項	○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる問題では、本校正答率が87.5%で、全国の平均正答率より0.6ポイント上回っている。	・抽象的な意味を表す語彙、例えば、「原因と結果」「事実と意見」「全体と部分」「反対と賛成」「中心と周辺」「目的と手段」などの関係や意味がわかるような例文を示し、丁寧に指導する。 ・各教科で、情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解して書けるよう、見方や書き方を指導し練習する場を設ける。
(3) 我が国の言語文化に 関する事項	○単語を漢字に書き直す問題では本校正答率が48.4%で、全国の平均正答率と比べて5ポイント上回っている。 ●話し言葉と書き言葉の違いに気付く問題では、本校正答率が68.8%で、全国の平均正答率と比べて7.1ポイント下回っている。	・今後も漢字の読み書きに関しては、文の中で漢字を使う練習や繰り返しドリル学習など、日常的な指導を充実させていく。 ・各教科の中で対話的な学習場面を意識して作り出し、話し言葉と書き言葉の違いについて、実践しながら練習する場を設ける。
A 話すこと・聞くこと	●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫されたものを選択する問題では、本校正答率が45.3%で、全国の平均正答率より7.6ポイント下回っている。また、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題も本校正答率64.1%で、全国の平均正答率より7.5ポイント上回っている。	・話し合う活動では、①役割を交代して話し合わせる、②質問したり答えたりする体験をする、③話し合いを聞いて感想を述べ合うなどの多様な方法を試みる。 ・様々な教科で、資料や図を活用して自分の考えが伝わるように表現を工夫できるよう指導し、発表の仕方や話を正しく聞いて理解する場を設ける。
B 書くこと	○目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことが明確なものを選択する問題では、正答率が90.6%で、全国の平均正答率より10.3ポイント上回っている。また、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題も本校正答率64.1%で、全国の平均正答率より7.5ポイント上回っている。	・各教科の振り返りに観点を示して書くなどの時間を、授業の中に意図的に設ける。 ・事実と感想、意見とを区別して書くために、各教科で自分の考えが伝わるように書く活動を意図的に設ける。
C 読むこと	○物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題では、本校正答率が82.8%で、全国の平均正答率より10.2ポイント上回っている。読むことの問題では、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることや、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えたりすることができているといえる。	・読書を推奨し、物語だけでなく様々な分野の文章に触れることで、考え方や語彙力を高めるようにする。 ・読んで分かったことを基に自分の考えを書く機会を意図的に設定する。 ・図表やグラフから読み取れることを言語化していく場面を意識して設定していく。

宇都宮市立細谷小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.3	66.7	66.0
	B 図形	71.1	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	49.5	49.6	51.7
	D データの活用	64.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	74.3	72.6	72.8
	思考・判断・表現	54.9	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ設問では、正答率が75.0%と、全国の平均正答率を5ポイント以上上回っている。 ●数量の関係を、□を用いた式に表す設問では、正答率が87.5%と全国の平均正答率よりも若干低くなっている。	・自分の考えを、式や図、言葉等を用いて表現したり、発表したりする機会を増やすことで、数量関係や、さまざまな計算などの課題について理解を深めることができるようにする。
B 図形	○球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す設問では、正答率が46.9%と、全国の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く設問では、正答率が71.9ポイントと、全国の平均正答率をわずかに下回っている。	・基本的な図形や立体の意味や性質、求積のしかたについて理解を深められるよう、既習事項の復習を繰り返し行い、内容の定着を図るようにする。
C 変化と関係	○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する設問では、正答率が70.3%と、全国の平均正答率を上回っている。 ●速さの意味について理解しているかどうかの設問では、正答率が45.9%と、全国の平均正答率を約4ポイント下回っている。	・速さや、単位量当たりの大きさの表す意味について理解できるような学習を継続して行い、公式だけに頼らない指導をする。
D データの活用	○簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する設問では、正答率が78.1%と、全国の平均正答率を約5ポイント上回っている。 ●円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る設問において、正答率が79.7%と全国の平均正答率を下回っている。	・複数のデータやグラフなどから、読み取ったり、分析したりする学習を授業の中で繰り返し行い、理解を深めるようにする。

宇都宮市立細谷小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」についての肯定的回答の割合は100%であった。
→今後もいじめは絶対に許さないという雰囲気を学校全体で作っていく。
○「自分には、よいところがあると思いますか。」についての肯定的回答の割合は98.4%で、県85.1%や全国84.1%を10ポイント以上上回った。
→本校の研究課題「自己有用感」につながる質問である。今後も一人一人の児童のよさを認め、励ます指導を継続して行っていく。
○「将来の夢や目標を持っていますか。」に対する肯定的回答の割合は93.9%で、県84.2%や全国82.4%を上回った。
→今後もキャリアパスポートや総合的な学習の時間等を効果的に活用しながらキャリア教育の充実を図り、目標に向かって頑張ろうとする児童の育成をしていく。
○「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」に対する肯定的回答の割合は92.3%で、県83.8%や全国81.9%を上回った。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。」に対する肯定的回答の割合は100%であった。
→主体的に学習に取り組もうとする姿勢が身に付いてきている。今後も学習形態を工夫したり、ICTを活用したりしながら児童の学習意欲を高めていきたい。
●「算数の勉強は好きですか。」についての肯定的回答の割合は50.8%で、県や全国より約10ポイント下回っている。同様に「理科の勉強は好きですか。」についての肯定的回答の割合も県や全国の平均を10ポイント以上下回った。
→「算数の授業は将来役に立つ。」「予想をもとに観察や実験計画を立てている。」という項目においては肯定的回答の割合が比較的高い傾向が見られるため、苦手意識をもっていることが考えられる。授業において意図的に既習の内容を振り返ったり、他教科と関連させながら学習を進めたりすることで、少しずつ改善を図っていきたい。
●「普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。」「普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。」について「3時間以上。」と回答した人数が10名以上見られる。また、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」について「全くしない。」と回答した人数が数名見られた。
→個別に家庭と連携し、ゲームやインターネットを使用する際のルールを見直してもらったり、家庭学習を習慣化できるように呼び掛けたりしていく。また、ゲーム依存やネット依存の実態や危険性等について適宜児童や保護者に伝えていく。

宇都宮市立細谷小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自らのよさに気づき、伸ばすことができる指導の工夫	○授業における児童のよさを認め励ます支援の充実 ○自己評価、相互評価を含めた振り返り活動の充実 ○学ぶ意欲を喚起する指導の充実 ○互いに認め、励まし合い、学び合う学習の場の設定と学習形態の工夫 ○まとめの学習の充実と振り返りの方法の工夫	「自分にはよいところがある」と答えている児童は98.4%、「人の役に立つ人間になりたい」と答えている児童は100%と、どちらも県の平均を上回っている。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と答えている児童は90.8%で、わずかながら県の平均を下回った。今後も児童のよさを認め、励ます支援に努めながら、「自己有用感を高める指導を推進していく。」
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○ねらい、まとめの明示など分かりやすい板書の工夫 ○児童が自ら選択して取り組む学習活動の重視 ○特別支援教育の視点を取り入れた指導の工夫 ○一人一授業の実施 ○ICTの積極的に活用による学びの深化	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えている児童は92.3%と、県の平均を上回っている。「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と答えている児童は92.3%と、県の平均を上回っている。今後も児童自らが進んで課題に取り組むことのできる指導や、ICT等を活用した学習を行い、学習意欲を高める工夫をしながら課題解決型の学習を進めていきたい。
安心して伝え合い、高め合える学びあいの重視	○「きらきら細谷っ子学習の約束」による学習習慣の形成 ○目的を明確にした学び合いのコーディネート ○話の聞き方・話し方の基本的な学習態度・学習技能の育成	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えている児童は92.3%と、県の平均を上回っている。「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えている児童は100%であった。今後も、より一層意見を交流させる機会を、授業や、学校生活の様々な場面で設けていくようにする。

基礎・基本の確実な定着を図る指導と家庭学習の習慣化	○学力調査等を活用した共通実践 ○朝の学習の充実(漢字・計算・読書) ○家庭学習(自学)の進め方の指導と家庭学習の定着化 ○漢字・計算オリンピックの年2回の実施 ○授業のユニバーサルデザイン化	「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」では、1時間から2時間と答えた児童が40.0%で、最も多かった。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」では、30分から1時間と答えた児童が43.1%と最も多く、いずれも県の平均よりも学習時間が少なかった。自主学習ノートを活用するなど、自主学習への取組を推奨しているが、内容・学習時間等に課題がある。自主学習を習慣化し、内容を充実できる方法や仕組みを考え、働きかけていきたい。
---------------------------	--	---

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを文章や言葉、式などで表すことができる児童が多くなってきているが、「話すこと・聞くこと」に課題がある。	○相手、目的や意図、場面や状況などに応じて、自分の考えを分かりやすく表現する(聞くこと・話すこと・話し合うこと・書くこと)力を育成するための言語活動の充実を図るとともに、根拠をもとに推測する力をさらに伸ばしていく。	・授業において自分の考えを話す機会を意識的に設けたり、自分や他者の考えに理由を加えて話し合ったりする活動を取り入れることにより、表現力の育成を図る。 ・テーマを決めて自分の考えを話したり聞き取ったりする機会を増やしたりしながら、要点を正確に話したり、聞いたりできるように繰り返し指導していく。